～テクノロジーも駆使して島根・出雲を盛り上げる～

AirREGI AirPAY

出雲大社参道のシャッター商店街を復活させた 100年以上続く地元和菓子屋の熱い想い

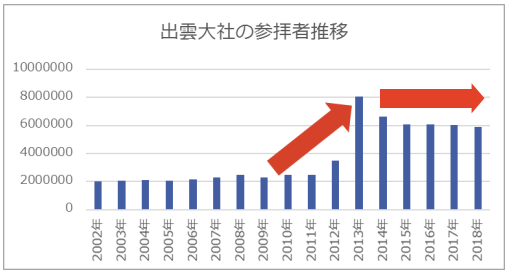
シャッター街からの復活の裏には、地元老舗和菓子屋の活躍も

60年に一度の“平成の大遷宮”を機に、観光客が約3倍になった「出雲大社」

■ 伊勢神宮とタイミングが重なり話題を呼んだ2013年の「平成の大遷宮」を機に参拝者数が急増。以降も人気を継続し続けている。

■ 特に人気なのが、大遷宮にあわせ2012年に開業した「ご縁横丁」。“出雲のいいもの、おいしいもの”をコンセプトに十数店舗が集まるテナント型商業施設。

■ 「ご縁横丁」は、2016年に予想よりも3年早く買い物客数が100万人を突破。



今では賑わう商店街も…以前はシャッター街だった

■ 「ご縁横丁」を擁する神門通り商店街は、1912年の国鉄大社駅の開業により参拝者で賑わっていたが、1960年代になり車社会が到来。参拝道は車で通過されるように。

■ 1990年にはJR大社線が廃止になり、「平日は猫一匹も通らない」と言われるほどさびれた商店街となった。

▲2007年頃の神門通り商店街の様子

100年以上続く地元和菓子屋「坂根屋」の三木氏をはじめとした地元民が奮闘

■ 「平成の大遷宮」を機に、観光地化に向けた取り組みとして、行政が石畳化や電線の地中化を実施。これまでなかった出雲大社と神門通り商店街を結ぶ横断歩道も設置した。

■ しかし、地元民には、景観が美しくなっても魅力的なコンテンツがないと、商店街には寄ってもらえないのでは、という危機感があった。

そこで立ち上がったのが、老舗和菓子屋「坂根屋」の三木氏。「出雲大社参拝後に、何を買ったり食べたりすればよいか分からない」という観光客の様子を見て、参拝後に出雲の良いものをすぐ楽しめるような場所があれば、賑わいを取り戻せるのではと考えた。

地元企業で良いものを提供している事業者を募り、ご縁横丁を開業。今では“出雲で出店したいエリアNo.1”とも呼ばれる観光スポットに。

神門通り商店街の出店数も2006年に20件程度まで減っていたが、2019年には72件に。13年間で約3倍に増加。

▲現在の神門通り商店街の様子

No.	店舗名	業種
1	出雲ぜんざい餅	飲食
2	まがたまや雲玉	小売
3	そば庄たまき	飲食
4	すし日本海	飲食・小売
5	Izumo Brewing Co. TAISHA	飲食
6	月と太陽	サービス（占い）
7	神在之里本舗	小売
8	けんちゃん漬け	飲食・小売
9	光海どり	飲食
10	しめ縄つくり体験工房 縁恋ぶろじぇくと	サービス
11	宝くじ	サービス

▲ご縁横丁の店舗一覧

株式会社ご縁横丁 統括 三木康夫氏（36）
三木氏は高校卒業後、大阪のイベント会社に就職、その後地元である出雲に戻り、「ご縁横丁」開業や神門通り商店会盛り上げのために奮闘

▲観光客で賑わいを見せるご縁横丁

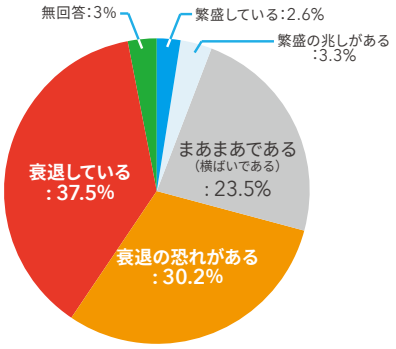
「ご縁横丁」成長継続の鍵は『Airレジ』『Airペイ』
業務負担が大きく軽減、キャッシュレス決済比率は1.6倍に増加

約70%の商店街が衰退実感、「ご縁横丁」もいつ窮地に立たされるかは分からない

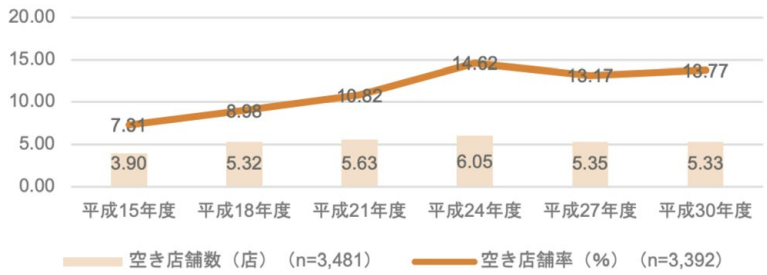
■最新調査では約70%の商店街が「衰退している」もしくは「衰退の恐れがある」と回答。

■平均空き店舗数や空き店舗率も上昇傾向。ご縁横丁や神門通り商店街もいつ窮地に立たされるかは分からない。

商店街の最近の景況



1商店街あたりの空き店舗の平均店舗数及び平均空き店舗率



出典:中小企業庁「平成30年度商店街実態調査報告書」

空いた時間でさらなる企画、三木氏の挑戦は続く

■2019年10月の「消費税増税・軽減税率制度」と「キャッシュレス・消費者還元」の準備のため、初期費用や固定費が抑えられる『Airレジ』『Airペイ』を導入。

■三木氏は「導入後2ヶ月でご縁横丁全体でのキャッシュレス決済比率が1.6倍に増加。導入前と比べると、決済手段の数が増えたことで、機会損失が減っている実感がある」と語る。

■店長会議では、『Airレジ』の売上データを基に振り返り、今後に向けた打ち手検討が実施されるように。これまでは、三木氏が表計算ソフトで昨対比較資料を作成し、持ち込んでいたため、業務負担が大きく軽減された。

■各店舗でも活用は進む。いつでもどこでもスマホで売上状況を確認できるため、現場にいなくても、人員の調整やお土産の売り場確保など適格な指示が出せるように。

▲導入された『Airレジ』の様子

▲レジ前には対応できる決済手段を掲示

▲『Airレジ』を持ち寄って行われる店長会議

空いた時間でさらなる企画、三木氏の挑戦は続く

テクノロジーを駆使することで、空いた時間を新たなコンテンツ企画にあてることができています。今後は、観光客同士や観光客と地元の方々が交流できる場所をつくりたいですね。神門通り商店街は、早い時間で閉まる店がほとんどのため、夜でも交流ができるように営業時間を深夜までにするなどの検証も行う予定です。

中長期的には営業人口や関連人口を増やすために、空き家物件を開発してソーシャルアパートメント化していく、という構想も持っています。島根県はU・Iターンランキングで全国2位であり、島根・出雲の良さを残しつつ、第2、3の拠点として過ごしやすい場づくりにも挑戦をしていきます。

※すべて2020年3月時点の情報です